

【教育活動の名称】 異学年交流（ミニたてわり）なかよしタイム

【副題】 けん玉でつながろう

【学校名】 栗東市立葉山小学校

1 本校の概要

本校は全校児童380名、各学年2クラス程度の比較的小規模の学校である。子どもたちの実態として穏やかでやさしい子どもたちが多い反面、自分から友だちに関わろうとする姿や子どもたち同士のつながりの弱さを感じる。また、たてわり活動を通して自分たちの学年だけでなく、学年を超えて構成される集団の中で、上学年へのあこがれや、下学年への思いやりの心を育て、連帯感を味わいながらお互いに高め合おうとする学校の雰囲気を作りたいたいと考えている。

2 取り組んだ内容

（1）学級活動やたてわり活動での取組

子どもたちが大好きな「けん玉」を、学級活動やたてわり活動で使用し、子どもたち同士のつながりや関係性を深めたり、教え合ったりする姿を期待した。けん玉は、子どもと子どもをつなぐツールであり、各学級や各たてわりグループで使用できる状況にすることで、より高い効果が期待できる。いただいたけん玉を各学級に配り、常時使用できるようにした。学級活動の取組では、「けん玉大会」や休み時間にもけん玉に取り組む姿が見られた。

（2）雨の日の「けん玉教室」

本校の児童は元気に外遊びする子が多い。しかし、雨の日は外で遊ぶことができず、教室で過ごしているが、エネルギーを持て余している傾向が見られる。そこで、雨の日に「けん玉教室」を開催し、希望する全校の子どもたちが1つの教室に集まり、けん玉の練習や、けん玉検定が受けられるようにした。



雨の日のけん玉教室

3 活動の成果

①子どもたちのつながりが広がる

けん玉は、子どもと子どもをつなぐツールであり、各学級や各たてわりグループで常時できる状況にしたことで、「教えあう姿」や「励ましあう姿」が見られた。今まであまり話したことがない友だちとも、けん玉を通して笑顔で関わる様子も印象的であった。



②学年を超えてつながる子どもたち

けん玉教室やたてわり活動で学年を超えてつながる子どもたち。低学年は、高学年のお兄さん、お姉さんに教えてもらい、「あんなふうにならなりたい。」と憧れを持つ。同学年だけでなく異学年ともつながる姿が見られた。



③生活科等、学習の一環としての取組へ

2月に行われた学習参観日では、生活科の「できるようになったこと発表会」の中でけん玉の技を発表する子どもたちが多くいた。日々、意欲的に練習に取り組み上手になってきた子どもたちは、保護者の前で堂々と発表し、大きな拍手をもらっていた。このように、休み時間だけの取組だけではなく、学習活動へと発展していったことは大きな成果だと考えている。